

タイトル	寸劇「四季の壁面を作ろう」
作成者(著者)	濱田英司
作成者(ヨミ)	ハマダ, エイジ
出版社・団体	下関短期大学保育学科
出版社・団体(ヨミ)	シモノセキタンキダイガクホイクガッカ
Nii資料タイプ(区分)	研究報告書(教育実践記録等)
ISSN	—
掲載誌名	第30回 下関短期大学保育学科 創作発表会研究発表要旨集
巻・号	—
開始ページ	10
終了ページ	11
発行日	2017/12/9

下関短期大学
〒750-8508 山口県下関市桜山町1-1

Copyright©2017 Shimonoseki Junior College All rights Reserved.

寸劇「四季の壁面を作ろう」

下関短期大学 保育学科 (担当教員：濱田 英司)

保育表現ゼミナール

2年 荒木古都乃、金子世玲華、柴村美帆、嶋田初音、永島実夏、西本沙月、前村泉里、溝田里沙、山下結衣

1年 石村美穂、瓜生純弥、織田啓二、白石りょう、坪井咲幸、中野美沙貴、中本彩花、濱田千尋、藤永真緒、山田夏穂、山田小綾、吉原愛

1 研究の目的

本ゼミナールでは、身近な素材及びテーマを基に、子どもの生活や遊びを取り巻く環境をより一層豊かにすることを目的として活動を進めている。

今年度ゼミ開講当初は、子どもが毎日の園生活を楽しみながら迎えられる保育環境の構築を大きな目的として、ゼミナール所属の学生たちでアイデアを出し合い、子どもたちに提供していきたい保育小物を実際に自分たちが制作してみることに始めた。

その後、反省・考察を繰り返す内に、単に制作物を展示するだけではなく、ステージ発表に向けて、制作活動と寸劇を融合させた内容にしようという考えが持ち上がった。そこで、制作していきたいテーマ(全体像)について話し合ったが、物語の一場面や、四季折々の風景についてなど、一人ひとり想像する世界観に違いが見られた。さらに一言に壁面構成といっても立体造形を含むものや動きのあるもの等、イメージに一人ひとり違いが見られた。

思い付きのみで制作活動を始めるのではなく、最終的な目的を見据えて改めてゼミナール活動を見直した結果、実際に子どもたちがみて、壁面構成の画の世界に入り込めるような作品を作ろうと考えるに至った。

表現の幅を広げるために壁面構成に必要なとなる一つひとつの制作物に加え、本来、保育室などに設置してある平面製作物主体の壁面構成の形に固執しない方向を検討した。

その結果、曲のリズムに合わせてその場で壁面構成を作り上げていくという発想が生まれた。さらにその特徴を生かし、一部に立体造形物等を用いて、学生本人が景色

(壁面構成)の一部になっていくという表現方法で舞台発表を進行するという表現方法を考えた。

この表現方法に基づき、改めて発表テーマについて話し合いをした結果、四グループに分かれて順に四季を表現していくという発表構成で舞台発表を行うことに決定した。

以上の経過をふまえて、本ゼミナールでは、多様な方法を用いて壁面構成での四季を表現することに焦点を当て、壁面構成で四季の表現を行うことを当ゼミでの最終的な目的とし、必要な材料や手順などについての研究を行った。

2 研究の方法

1) 題材・発表形態の決定

話し合いを重ね、音楽曲に合わせて事前に準備しておいた制作物をその場でパネルに飾りながら壁面構成を作り上げていくという寸劇という発表形態をとることにした。

2) テーマの決定

全体的な世界観や色合いなども想定し、完成した時にそれぞれ雰囲気が異なる世界を表現できるという点で、四季(春夏秋冬)をテーマに選んだ。

3) 制作物の決定

完成予定図を描き、それに基づいて色画用紙などの身近な素材を用いて表現することにした。平面の制作物だけでなく、一部は、立体造形物で表現することとした。その他にも花などの小道具をはじめ、壁面構成の一部として学生本人が登場するための衣装等も作ることにした。

4) 使用する曲目の決定

舞台発表で使用する選曲した。音楽の進行に合わせて飾り付けていくこととしたため、完成予定図のイメージに合うことに加え、テンポが良い曲を選ぶ必要があった。

5) ステージ構成の決定

単に曲が流れている時間に合わせて制作物をパネルに貼り付けていく作業を行うだけではなく、作品全体に変化や動きを出すためにグループごとにアイデアを出し合い全体の流れを作り、表現を工夫することとした。

3 研究の内容

1) 完成予定図の作成

パネルの縦と横の長さの比率に合わせて、完成した時の作品がイメージできるよう、グループごとに完成予定図を描いた。

2) 壁面構成の作成

完成予定図を基に貼り付けるパネルの大きさ（縦120cm横180cm）に合わせて、予定図を参考にして拡大した制作物を各自で作った（写真1、写真2）。



写真1 四季の壁面「春」

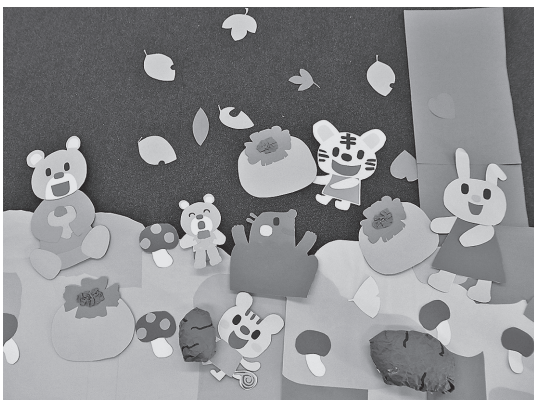


写真2 四季の壁面「秋」

3) 壁面構成制作寸劇の練習

出来上がった一つひとつの制作物を基に、グループごとに設定した曲に合わせてパネルに飾り付けていく練習を行った。

初めのうちは、時間を気にして手元に集中するあまり、完全に観客に背を向け、完成予定図通りに飾り付けができない事が多かった。

しかし、練習を重ねて慣れてくると、表情や動きが自然なものになり、スムーズに表現できるようになっていった。

4 反省・感想及び今後の課題

担当教員と所属学生との間で毎回意見を交わしながら進めたが、具体的な題材やテーマの決定が遅れてしまったことが反省点として挙げられる。

さらに、毎回アイデアを出しては計画を修正しながら活動を進めていったために、一定期間が経過しても思うように形にならず、中には目的が不鮮明で、ややまとまりのない活動もあったように感じられる。

しかし、ゼミナール全体で最終的な目的を決めてからは、学生間でイメージを共有することができ、意見交換できたことで自然と学生同士のコミュニケーションも豊かになった。

今後の課題としては、よりいっそう実際の保育現場の現状と重ね合わせる工夫の必要性が挙げられる。さらに、より広い視野で子どもたちの育ちや遊びを捉えられるようにする必要がある。同時に、子ども達のより豊かな育ちに貢献できるような環境作りや表現方法についても検討していくべきである。今後、学生ならではの活動、つまり、保育現場をふまえながら時間をかけて取り組むことが必要なテーマについても注目したい。ゼミナール授業でこそ取り組む価値がある活動が何であるのか、考察しながら、活動を展開したい。